

## 大阪市立市岡東中学校

# 元気アップ便り

元気アップコーディネーター 千葉清二

こんにちは。梅雨前線が活発化して「つゆ」が本格的になっていますね。「つゆ」のこの時期に似合う花といえばやはり「アジサイ」ではないでしょうか。アジサイは土地の酸性度によって色が変わり、アルカリ性では赤く、酸性では青くなるとされます。(リトマス試験とは逆ですね。)

アジサイは別名がいろいろありますが「七変化」という別名も色が変化することからくる別名ではないでしょうか。その他には「オタクサ」もあります。これは社会科で学習した「シーボルト」が名付けたもので、学名にも使われています。

シーボルトはこの日本で美しく咲くアジサイがとても気に入りました。シーボルトは日本人の「お滝」と結婚し、一女「イネ」も授かりますが、(イネは日本で初めて西洋医学を学んだ産科医となります。)シーボルトは深く「お滝」を愛し、同じように美しく咲きほこるアジサイに「お滝」から「オタクサ」と名付けたのです。

日本ではシーボルトといえばドイツ人医師であり、長崎で「鳴滝塾」を開き、50人もの弟子をもち、医学や蘭学を教えたとして有名ですが、実はオランダからの要請で、出島でのオランダ人の診察の他、オランダに利益になる植物がないか調査、収集することが主な目的だったのです。(オランダは現在も世界中から植物を集め、品種改良して輸出していますね。チューリップが一番有名です。)シーボルトは帰国のとき、ユリ、バラ、ヒヤシンス、フジ、トチノキ、ケヤキ、ツタなど500種類以上も持ち帰り、そのとき伊能忠敬の地図のコピーを持ち出そうとして、それが発覚し、国外追放処分となり、門人らが多数処罰されました。(1828年 シーボルト事件)動植物を持ち帰ったり、当時の国防上の極秘事項の地図の持ち出しなど現在から見ると、法律違反の行動をしましたが、シーボルトが持ち帰った植物はヨーロッパで大きなセンセーションを巻き起こしたのです。ヨーロッパにおける日本とのつながりの大きな一助となったのです。

みなさんもアジサイの花(植物学的には花卉のように見えるのはガクであり、真花は奥に小さく咲いています。)のようにしっかり前向きに授業に向き合ってください。

### 3年生のみなさんへ

この「元気アップ便り」の前に、7月および夏休み特訓のお知らせを配布しました。期末テストが終わってホッとしている人も多いと思いますが、人間は忘れる動物です。少し油断していると学習した内容がすぐに忘れてしまいます。もう一度気を引き締めて頑張りましょう。